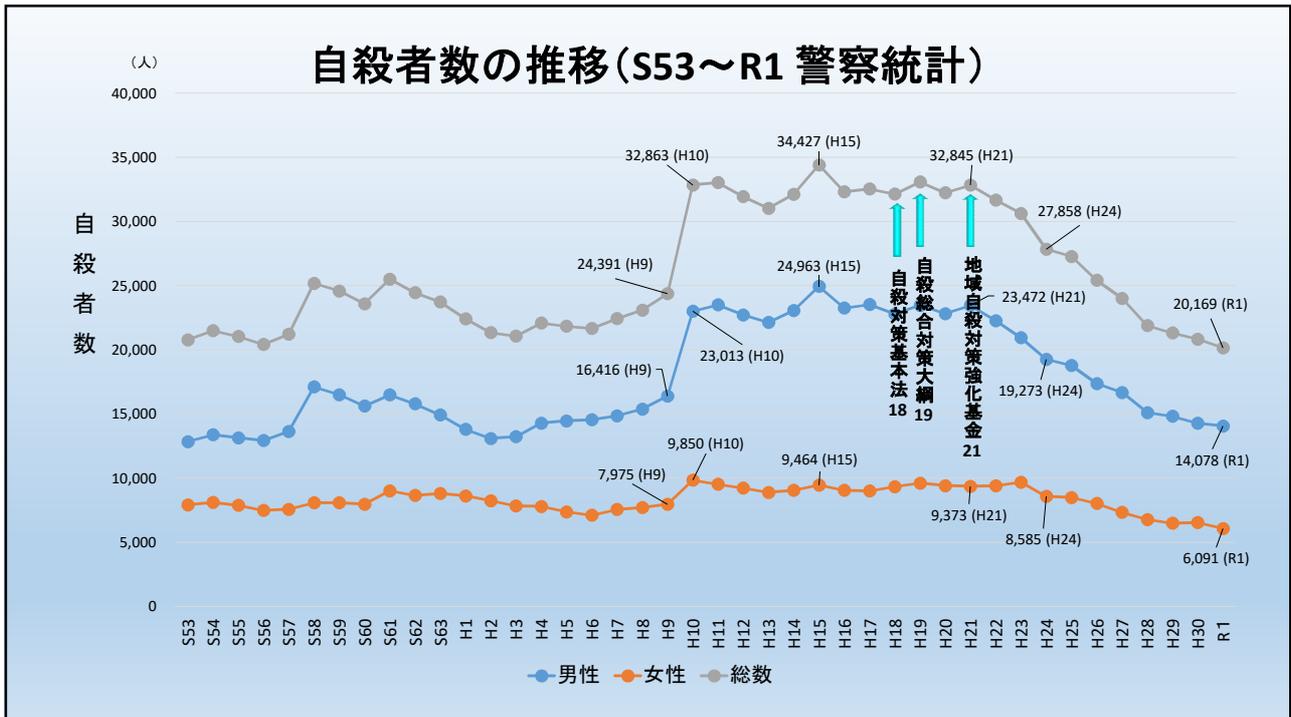
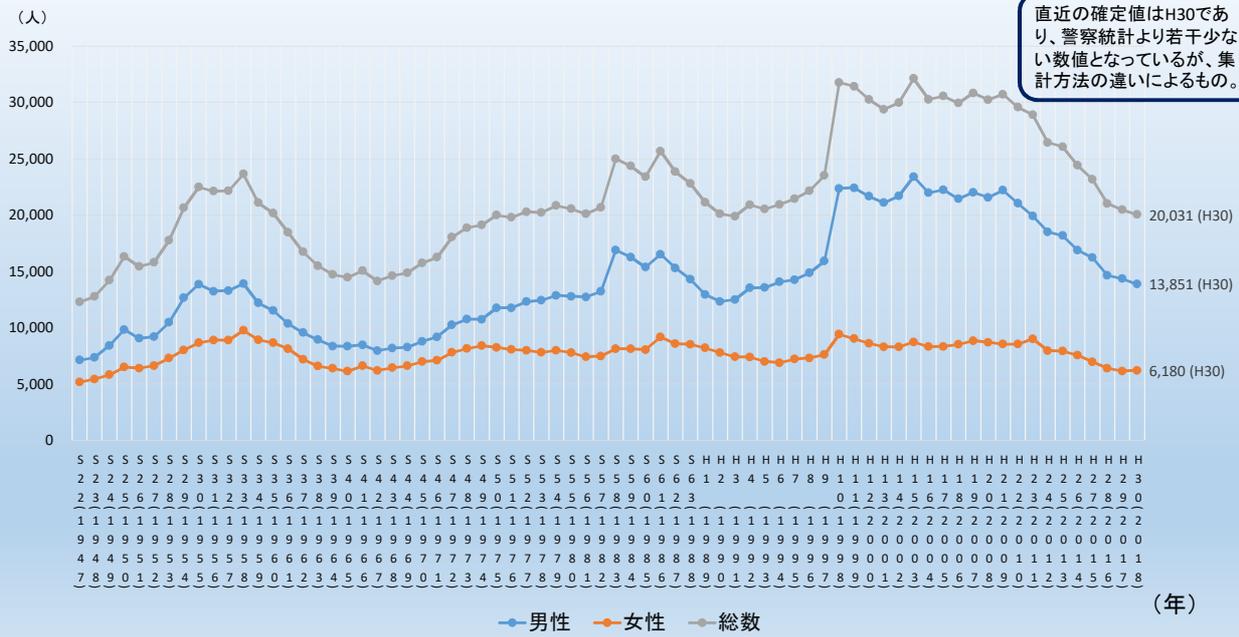


# 神奈川県における 自殺者の状況 (令和元年)

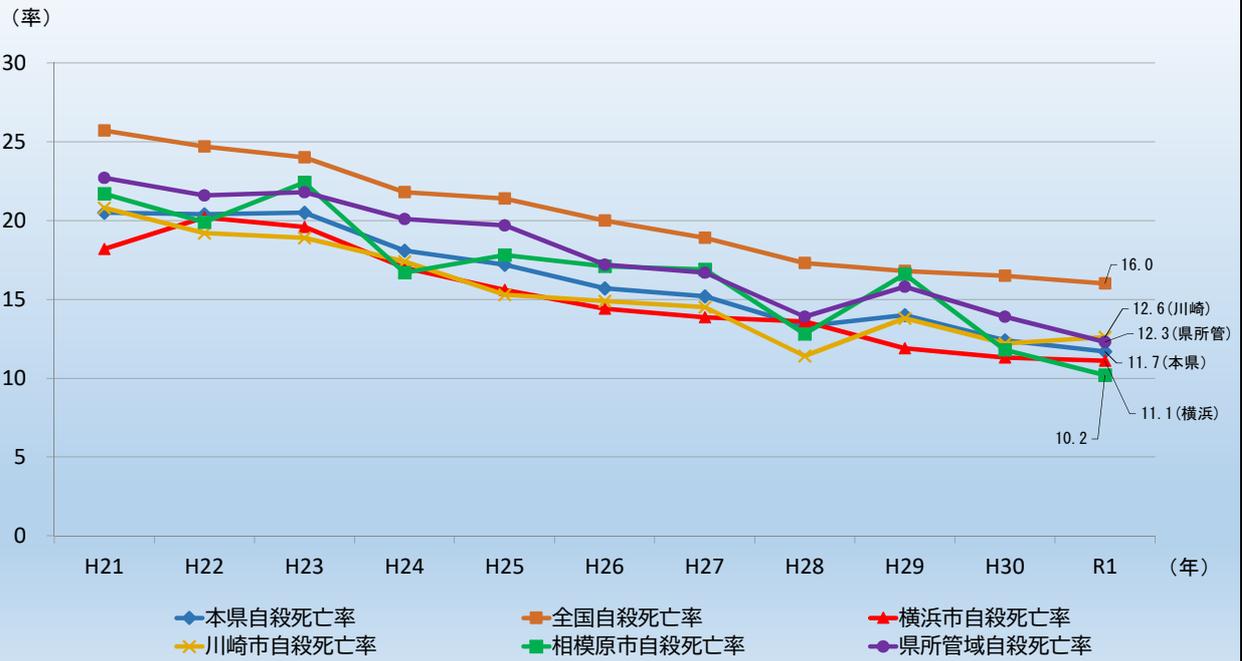
令和2年7月  
第27回 かながわ自殺対策会議



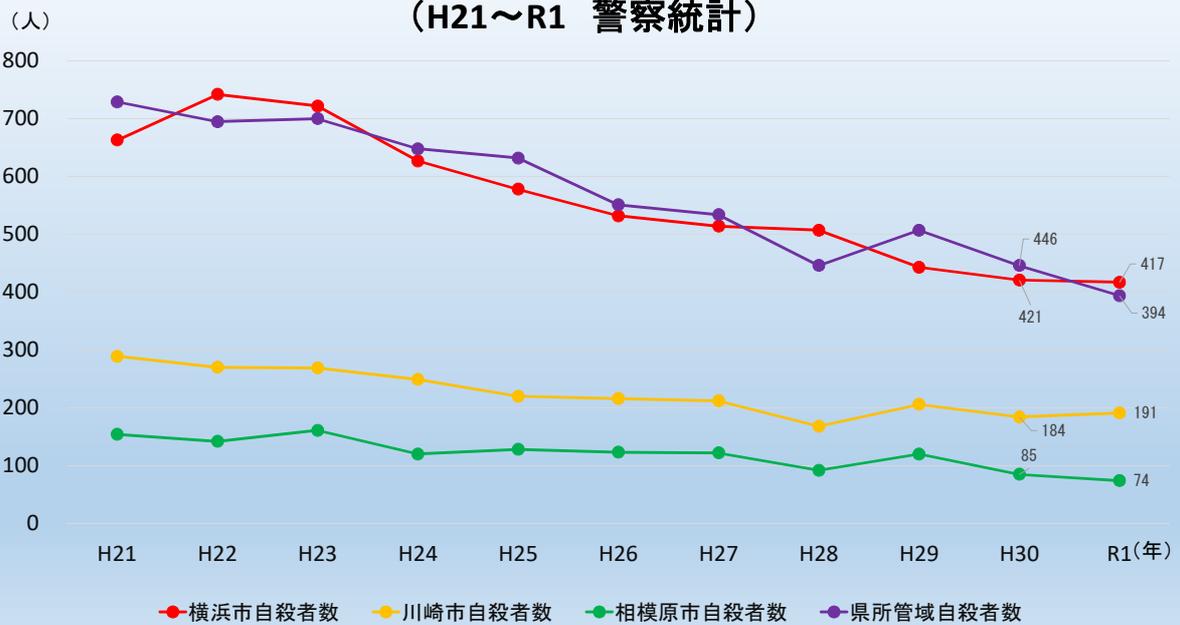
### 自殺者数の長期的推移 (S22～H30 人口動態統計)



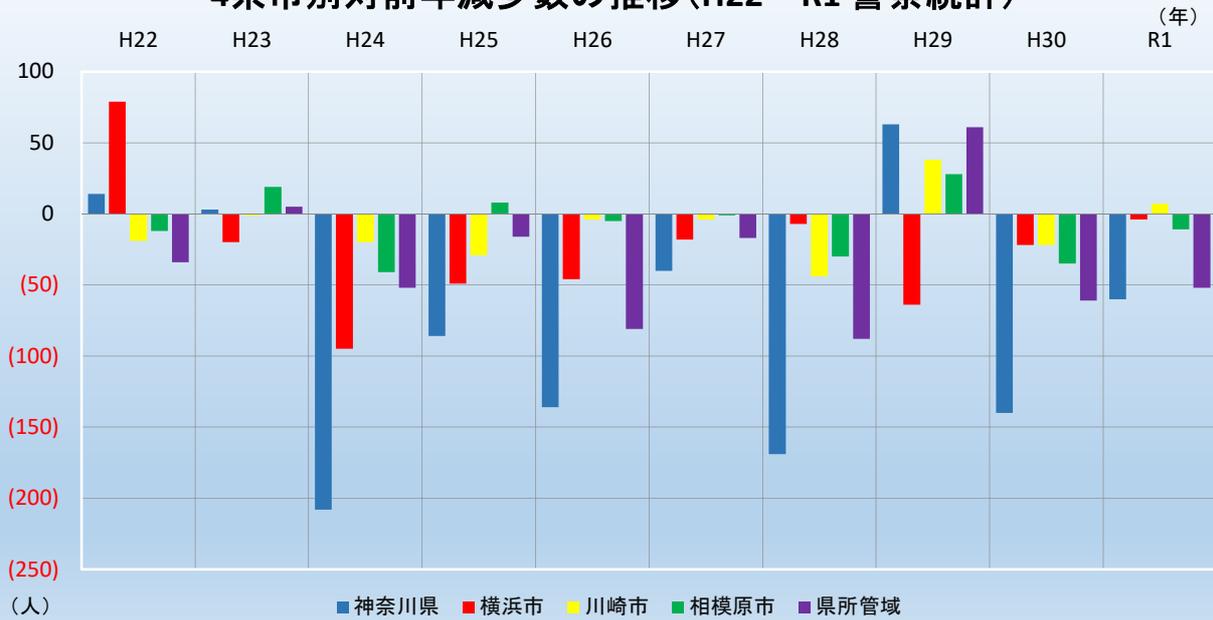
横浜、川崎、相模原、県域の自殺率の推移 (H21～R1 警察統計)



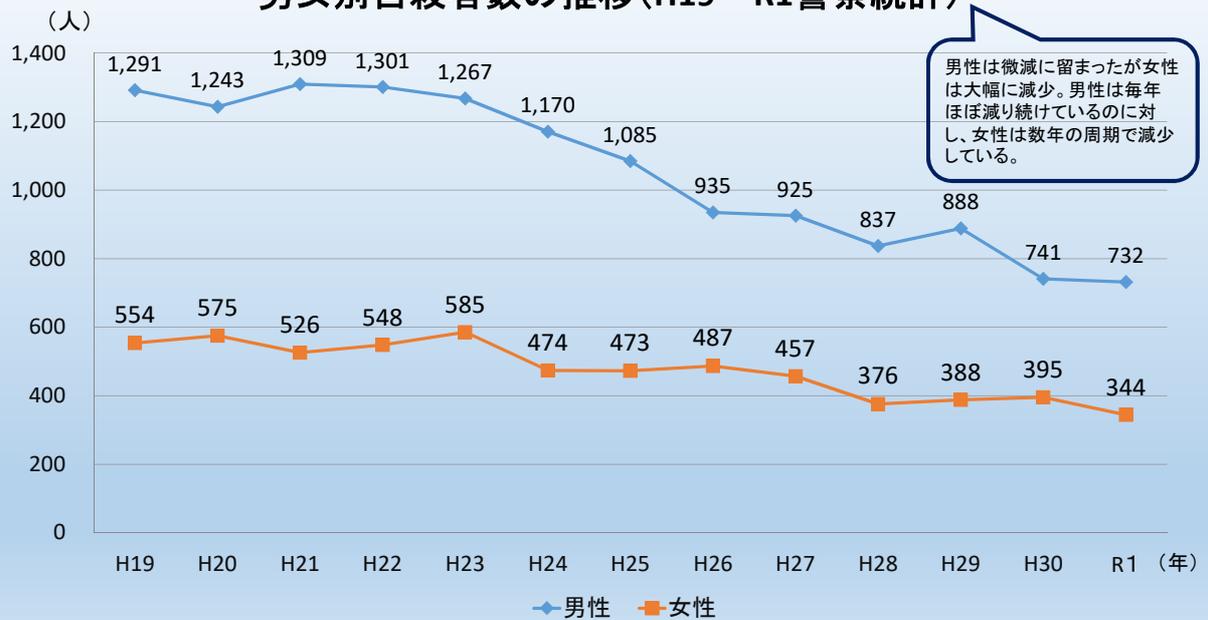
横浜市、川崎市、相模原市、県域の自殺者数の推移 (H21～R1 警察統計)

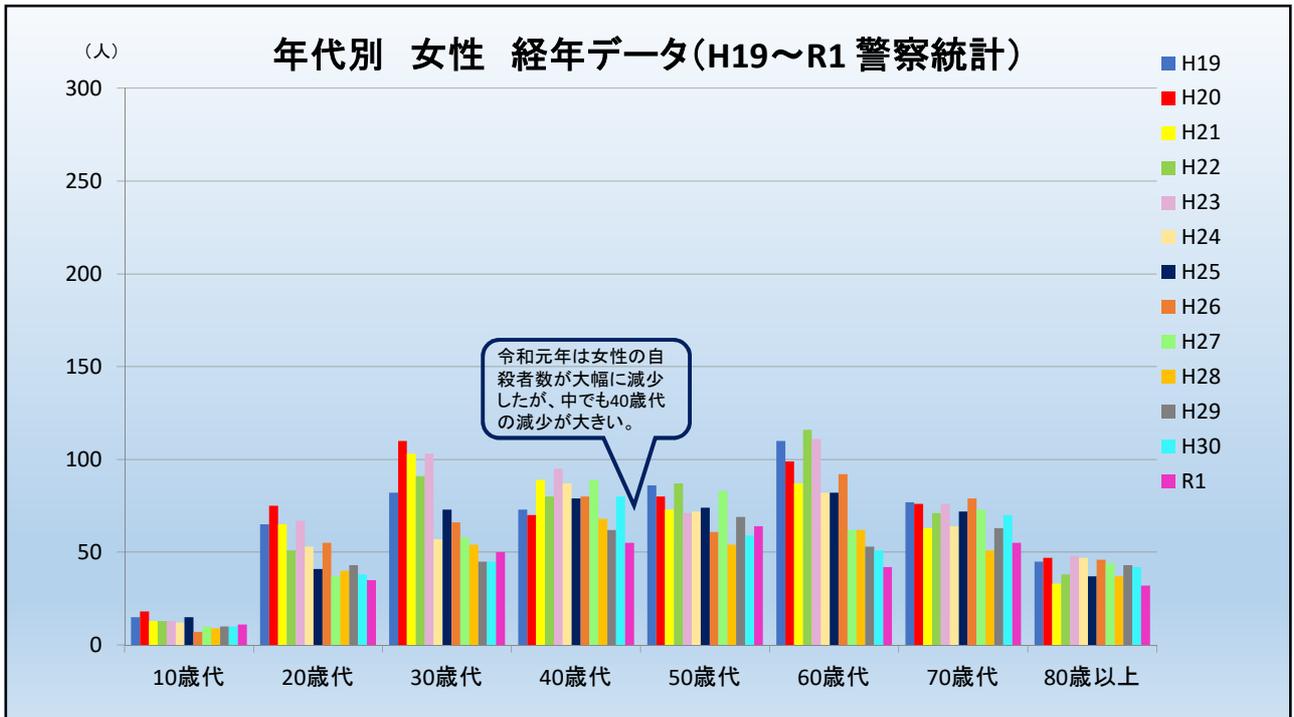
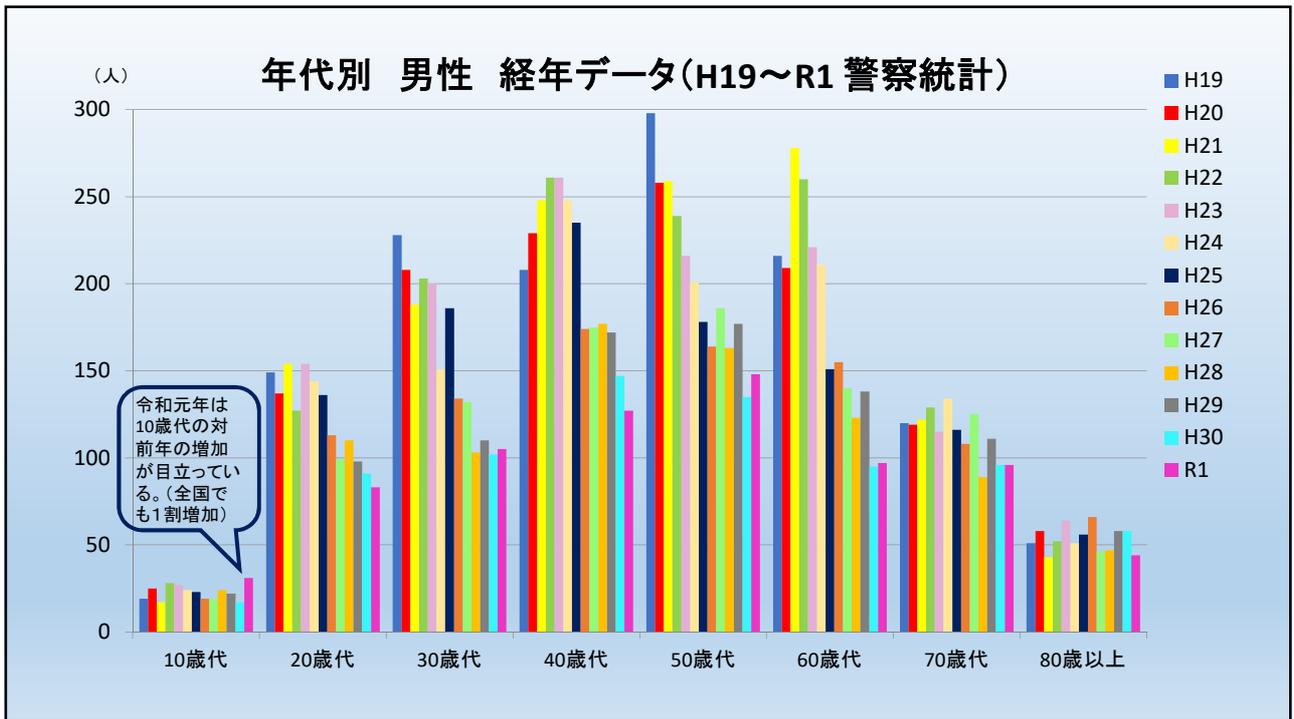


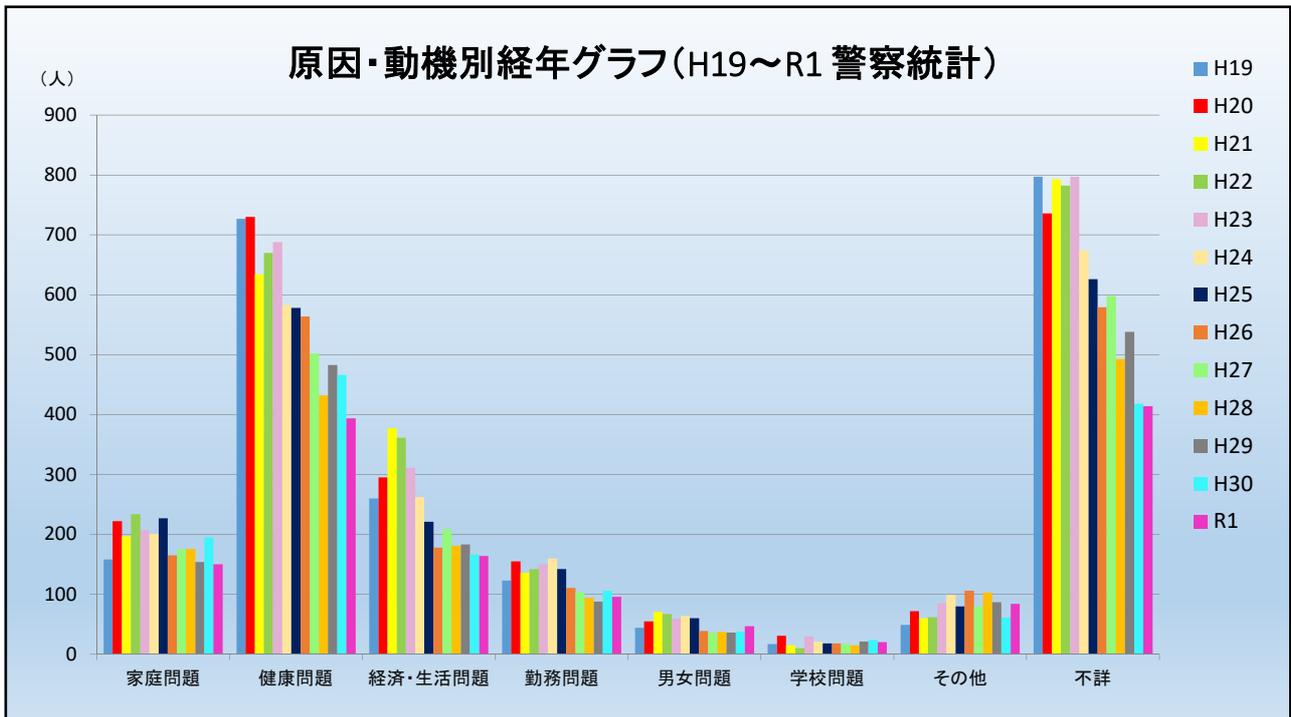
### 4県市別対前年減少数の推移(H22～R1 警察統計)



### 男女別自殺者数の推移(H19～R1警察統計)







### 令和元年の年代別3大原因・動機とその割合 (警察統計、神奈川県) ※原因・年齢の不詳を除く (全年代は不詳を含む)

年代	第1位		第2位		第3位	
	原因	割合	原因	割合	原因	割合
10歳代	学校問題	21.4%	その他	19.0%	健康問題	16.7%
20歳代	健康問題	25.4%	経済・生活問題(同率)		15.3%	
			男女問題(同率)			
30歳代	健康問題	29.0%	経済・生活問題	20.0%	家庭問題	16.1%
40歳代	健康問題	33.5%	経済・生活問題	18.7%	勤務問題	15.9%
50歳代	健康問題	35.4%	経済・生活問題	20.8%	勤務問題	15.9%
60歳代	健康問題	36.7%	経済・生活問題	15.8%	家庭問題	12.9%
70歳代	健康問題	56.3%	家庭問題	15.2%	経済・生活問題	8.6%
80歳代以上	健康問題	52.6%	家庭問題	21.1%	その他	7.9%
全年代	健康問題	36.6%	経済・生活問題	15.2%	家庭問題	13.9%

## 令和元年の年代別3大原因・動機とその割合

(警察統計、全国) ※原因・年齢の不詳を除く (全年代は不詳を含む)

年代	第1位		第2位		第3位	
	原因	割合	原因	割合	原因	割合
10歳代	学校問題	32.7%	健康問題	22.3%	家庭問題	18.9%
20歳代	健康問題	31.9%	勤務問題	17.2%	経済・生活問題	16.0%
30歳代	健康問題	37.5%	経済・生活問題	18.1%	家庭問題	16.7%
40歳代	健康問題	40.6%	経済・生活問題	20.4%	家庭問題	16.1%
50歳代	健康問題	43.1%	経済・生活問題	23.9%	家庭問題	14.4%
60歳代	健康問題	56.2%	経済・生活問題	20.3%	家庭問題	13.8%
70歳代	健康問題	68.1%	家庭問題	15.1%	経済・生活問題	10.5%
80歳代以上	健康問題	73.4%	家庭問題	16.4%	その他	7.0%
全年代	健康問題	48.4%	経済・生活問題	16.7%	家庭問題	14.9%

## 自殺の状況(令和元年警察統計)

	自殺者数		自殺率	
	低値	高値	低値	高値
①	鳥取県80	東京都2,107	神奈川県11.7	山梨県22.3
②	島根県109	大阪府1,231	京都府12.5	岩手県22.2
③	徳島県113	埼玉県1,110	大阪府14.0	秋田県22.1
④	福井県125	神奈川県1,076	岡山県・ 鳥取県 14.3	新潟県19.8
⑤	高知県134	愛知県1,062		福島県19.3
全国	20,169		16.0	

## 自殺の状況 (平成30年人口動態統計)

	自殺者数		自殺率	
	低値	高値	低値	高値
①	鳥取県82	東京都2,023	徳島県12.4	和歌山県21.2
②	徳島県91	大阪府1,465	石川県12.9	青森県20.6
③	福井県106	神奈川県1,293	京都府13.3	岩手県20.5
④	島根県108	埼玉県1,176	岡山県13.5	秋田県20.3
⑤	佐賀県125	千葉県1,029	愛知県13.7	福島県19.7
⑧			神奈川県14.4	
全国	20,031		16.1	
	(令和元年概数) 19,415		15.7	

## 今後の数値目標 (国)

令和8年までに先進諸国の水準まで減少させることを目指す

平成27年(人口動態統計)自殺死亡率 18.5 を令和8年までに 30%以上 減少させる  
 $18.5 \times 0.7 = \text{目標値 } 13.0$

以下

### ・先進諸国の自殺率

フランス : 15.1 (2013)

アメリカ : 13.4 (2014)

ドイツ : 12.6 (2014)

カナダ : 11.3 (2012)

イギリス : 7.5 (2013)

イタリア : 7.2 (2012)

神奈川県 : 14.4 (平成30年)

## 今後の数値目標（神奈川県）

（人口動態統計）自殺死亡率を平成28年から5年間で 15%以上  
減少させる

（令和3年に 12.4以下 にする）

$$\text{平成28年 } 14.6 \times 0.85 = \text{令和3年 } 12.4\text{以下}$$

## 年代別死因 と自殺率※（男女）

（厚生労働省人口動態統計月報年計令和元年）

※自殺については、10万対の自殺率を記載

年齢	1位	2位	3位
0～4歳	先天奇形等	呼吸障害等	不慮の事故
5～9歳	悪性新生物	不慮の事故	先天奇形等
10～14歳	悪性新生物	自殺 1.7	不慮の事故
15～19歳	自殺 9.8	不慮の事故	悪性新生物
20～24歳	自殺 17.4	不慮の事故	悪性新生物
25～29歳	自殺 16.9	悪性新生物	不慮の事故
30～34歳	自殺 17.7	悪性新生物	不慮の事故
35～39歳	自殺 17.6	悪性新生物	心疾患
40～44歳	悪性新生物	自殺 17.5	心疾患
45～49歳	悪性新生物	自殺 18.9	心疾患
50～54歳	悪性新生物	心疾患	自殺 20.7
55～59歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
60歳代以上	悪性新生物	心疾患	肺炎

## 年代別死因 と自殺率※（男）

（厚生労働省人口動態統計月報年計令和元年）

※自殺については、10万対の自殺率を記載

年齢	1位	2位	3位
0～4歳	先天奇形等	呼吸障害等	不慮の事故
5～9歳	悪性新生物	不慮の事故	先天奇形等
10～14歳	悪性新生物	自殺 1.7	不慮の事故
15～19歳	自殺 13.2	不慮の事故	悪性新生物
20～24歳	自殺 24.4	不慮の事故	悪性新生物
25～29歳	自殺 22.8	不慮の事故	悪性新生物
30～34歳	自殺 26.2	悪性新生物	不慮の事故
35～39歳	自殺 25.8	悪性新生物	心疾患
40～44歳	自殺 25.9	悪性新生物	心疾患
45～49歳	悪性新生物	心疾患	自殺 26.9
50～54歳	悪性新生物	心疾患	自殺 29.7
55～59歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
60歳代以上	悪性新生物	心疾患	肺炎

## 年代別死因 と自殺率※（女）

（厚生労働省人口動態統計月報年計令和元年）

※自殺については、10万対の自殺率を記載

年齢	1位	2位	3位
0～4歳	先天奇形等	呼吸障害等	不慮の事故
5～9歳	悪性新生物	先天奇形等	不慮の事故
10～14歳	自殺 1.7	悪性新生物	不慮の事故
15～19歳	自殺 6.4	悪性新生物	不慮の事故
20～24歳	自殺 10.1	不慮の事故	悪性新生物
25～29歳	自殺 10.7	悪性新生物	不慮の事故
30～34歳	悪性新生物	自殺 8.8	不慮の事故
35～39歳	悪性新生物	自殺 9.0	心疾患
40～44歳	悪性新生物	自殺 8.8	脳血管疾患
45～49歳	悪性新生物	自殺 10.7	脳血管疾患
50～54歳	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患
55～59歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
60歳代以上	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患

## 諸外国の15～34才の死因順位

(平成27年度版自殺対策白書より)

	1位	2位	3位
日本	自殺	事故	悪性新生物
フランス	事故	自殺	悪性新生物
ドイツ	事故	自殺	悪性新生物
カナダ	事故	自殺	悪性新生物
アメリカ	事故	自殺	殺人
イギリス	事故	自殺	悪性新生物
イタリア	事故	悪性新生物	自殺
韓国	自殺	事故	悪性新生物

### まとめ

- 令和元年の自殺は、(警察統計上)  
国で 実数20,169人、自殺率16.0 に減少した。  
神奈川県は、実数1,076人、自殺率で11.7 に減少した。
- その結果、神奈川県は令和元年、警察統計上自殺率の最も低い都道府県となった。

#### <補足:令和2年の状況について>

令和2年4月の自殺者数は、警察統計によると、令和元年同月比で約20%減であったが、これは一時的なものと捉えるべきであろう。新型コロナウイルス感染症の影響による自殺のリスクの高まりに注視し、自殺対策を担う我々は、「最も深刻なシナリオ」を想定して動いていく必要がある。

(令和2年5月21日 国主催「自治体職員(自殺対策担当)オンライン緊急研修会」における説明より引用)